

1. 調査報告概要表

作成日 平成 21年 1月8日

【評価実施概要】

事業所番号	1071000168
法人名	株式会社 ブッセ
事業所名	グループホームひまわり
所在地	群馬県富岡市宇田509 (電話) 0274-63-8820
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2丁目29-5
訪問調査日	平成 20年 12 月 16 日

20【情報提供票より】(20年12月 8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 12 年 6 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 3人, 非常勤 6人, 常勤換算4.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての 階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (150,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 200 円	昼食 200 円	
	夕食 300 円	おやつ 円	
	または1日当たり 700 円		

(4) 利用者の概要

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	4 名	要介護2	0 名
要介護3	4 名	要介護4	0 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢 平均	75 歳	最低	73 歳
		最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	富岡総合病院 ・ 西毛病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者と職員は連携を密にしながら、利用者が楽しく暮らせるような生活支援を目指し、ケアサービスの向上に取り組んでいる。利用者の意見を取り入れ、楽しみごとを重視した月間行事を行っている。毎日、脳活性化リハビリ(合唱、体操、ボール遊び、その他)を実施しており、一人ひとりのペースを尊重しながら個別に支援している。利用者同士が助け合う場面も見られ、職員に見守られながら、明るくゆったり生活しているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>理念の共有と日々の取り組み、市町村との連携、家族等への報告、運営に関する家族等意見の反映、職員の異動等による影響への配慮、馴染みながらのサービス利用、思いや意向の把握、現状に即した介護計画の見直し、プライバシーの確保の徹底については、改善されている。地域とのつきあい、評価の意義の理解と活用、運営推進会議を活かした取り組み、重度化や終末期に向けた方針の共有、災害対策については、話し合いはされているが改善課題として残されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価については、管理者と職員2名で作成しており、全職員で取り組んでいない。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>定期的開催しており、事業所から活動状況等の報告や外部評価の説明・報告を行い、意見交換や討議をしている。メンバーから出された意見等はサービスの向上に反映させている。メンバーの一員である区長の協力を得て、地域の祭りに参加し地域の人々と交流を図った。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族等の来訪時には、日頃の暮らしぶり等を報告しながら話しやすい雰囲気づくりに努め、苦情や意見等を聞くようにしている。意見箱を設置している。出された意見等は会議等で話し合い運営に反映させている。管理者が苦情処理対応窓口となっており、行政機関等の苦情相談窓口も文書で明示している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣の人々に野菜等をもらったり、散歩やゴミ出しの時に挨拶をしている。中学生の体験学習の受け入れをしている。地域の祭りに利用者と参加している。事業所の行事案内を近隣地域に回覧してもらえよう区長に依頼している。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	サービスのあり方を端的に示した事業所独自の理念を掲げているが、地域との関係性を重視した地域密着型サービスとしての理念をつくりあげていない。	○	これまでの理念を見直し、【地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えるケア】という地域密着型サービスの意義と役割を全職員で確認し、地域生活の継続支援、事業所と地域の関係性強化を謳った理念をつくりあげていってほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を共有し、日常業務や会議の中で職員間で確認し合い、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の人々に野菜等をもらったり、散歩やゴミ出しの時に挨拶をしている。中学生の体験学習の受け入れをしている。地域の祭りに参加している。ゴミステーションの清掃当番に協力している。	○	区長(運営推進会議メンバー)の協力を得て、地域の祭りに参加している。事業所の行事案内を近隣地域に回覧してもらえるよう区長に交渉中である。これからも事業所自体が地域の一員として、地元の活動や地域住民との交流に積極的に取り組んでいってほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は管理者と職員2名で作成しており、全職員で取り組んでいない。外部評価の結果については、職員間で話し合い改善に向け取り組んでいる。	○	評価は一連の過程を全職員で取り組むことで、日常のケアの振り返りや見直し等が可能となり、サービスの質の確保・向上に活かしていけるので、全職員で取り組んでいってほしい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第3土曜日に開催している。事業所から状況報告や外部評価の報告等を行い話し合いを行っている。そこでの意見等はサービスの向上に活かしている。最近では会議の出席者が少なく、活発な意見交換が行われていない。	○	運営推進会議は外部の人々の目を通して、事業所の取り組み内容や具体的な改善課題を話し合い、地域の理解と支援を得るための貴重な機会である。地域住民メンバーを増やしたり、家族等にも参加してもらえるような工夫をし、意見・要望を受け、それをサービスの向上に具体的に活かしていってほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に合わせて納涼祭を開催し、市の担当者に参加してもらい、利用者・職員と交流する機会をつくった。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の来訪時には健康状態や暮らしぶり等を伝えている。電話で報告や連絡をする場合もある。3ヶ月に1回、利用者の日常の様子等を記載し家族へ送付している。年1回『ひまわり新聞』を送付している。金銭管理の報告も定期的に行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の来訪時には話しやすい雰囲気づくりに努め、苦情や意見等を聞くようにしている。意見箱を設置している。意見等は会議等で話し合い運営に反映させている。管理者が苦情処理対応窓口となっており、行政機関等の苦情相談窓口等も文書で明示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動等については最小限に抑えるよう努めている。職員が代わる場合には、1週間位先輩職員が基本的な対応やケア方法等指導しながら共に支援にあたり、利用者へのダメージを防ぎ、馴染みの関係が築かれるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回職員育成の為に会議を開き、勉強会を行っている。地域密着型サービス連絡協議会等の外部研修に参加し、内容については会議で報告している。救命救急の講習は全職員が受けている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入している。連協主催の大会やレベルアップ交換研修に管理者や職員が参加し、同業者と交流する機会を持っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員が入居前に訪問し状況を把握したり、本人・家族等に見学及び1日体験をしてもらいながらホームの様子を見てもらっている。入居後も、本人の話には傾聴し家族等に来訪してもらう等の協力を得ながら、徐々に環境に馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、日常生活場面や本人との会話の中から、昔の歌や生活の知恵、伝統食の作り方等を教わることも多い。共に過ごし支えあえる関係づくりに留意している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活暦を把握し、一人ひとりの言葉や行動等から本人の思いや意向を把握するよう努めている。家族等からも情報を得るようにしており、職員間で共有し日々のケアに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるよう、本人や家族には日頃のかかわりの中で要望を聞き、介護計画に反映させるようにしている。月1回職員会議を実施しており、職員全員で意見等を出し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化が生じた場合は、随時の見直しを行っている。定期的見直しについては、3ヶ月毎に行っている。毎月モニタリングを行い、職員間で話し合い、本人・家族等の要望や状況を確認しながら、現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の要望や都合に応じて、受診・通院の付き添いや買い物等、一人ひとりの必要な支援に柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族等の希望するかかりつけ医での受診支援が行われている。家族等の都合で職員が代わりに付き添った場合は、受診後家族に状況等の報告をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合には、本人・家族等とよく話し合い意向に沿って支援している。事業所で対応し得ない場合には医療機関等へ繋げる支援をしている。事業所としての重度化や終末期に向けた方針は定めていない。	○	事業所として対応しうる最大の支援方法を踏まえて、重度化や終末期に向けた対応の方針を定め、文章化してほしい。できるだけ早期から本人、家族等に説明・確認を行い、家族等の意向を確認しながら、かかりつけ医等ケア関係者全体で話し合いをくり返し、対応方針の統一を図っていかれるとよいのではないかと。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや言葉遣い、対応等で一人ひとりの尊厳を傷つけないよう、職員間で話し合い徹底するよう努めている。記録等の個人情報の取り扱いに関しては留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの体調に配慮しながら、その時々希望にそって過ごせるよう、好きな衣類の着用、清掃、お茶の用意、体操、合唱、散歩、ドライブ等柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は力量に応じて、野菜の皮むき、配膳、食器拭き等職員と共にしている。職員が利用者の好みを取り入れた献立を作成している。さりげない介助や会話等で楽しく食事ができるよう支援している。手作りおやつ(饅頭、たこ焼き、焼き餅等)は利用者と一緒に作っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴を基本としているが、利用者の希望があれば、その都度個々に入浴支援を行っている。入浴できない場合には、部分浴やシャワー浴、清拭の対応をしている。年2回日帰り温泉に行き、個室を借りて入浴を楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	清掃、洗濯物干し、皮むき、後片づけ等で個々の力を発揮してもらい感謝の言葉を伝えている。体操、合唱、おやつ作り、誕生会、納涼祭、お楽しみ会、ボランティアの慰問等の支援をしている。外出や行事等の楽しみごとの支援は、利用者以案を出してもらい相談しながら行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物、ドライブ、季節の花見、日帰り温泉等、利用者の希望にそって、戸外に出て楽しめるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることへの弊害を理解しており、職員の見守りの中で安全を確保しながら、日中は玄関に鍵をかけないケアを実施している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、消防署の協力を得て、避難誘導訓練、消火訓練を実施している。緊急連絡網を作成している。管理者が防火管理者の講習を受けている。訓練には区長、民生委員に参加してもらったが、地域の人々の協力が得られていない。	○	いつ起こるか分からない災害に備えて、地域の人々の協力が得られるよう協力体制を築き、日中・夜間を想定した具体的な実践訓練を定期的実施して欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を記録し、職員は情報を共有しながら支援している。献立は利用者の希望を採り入れながら作成している。一人ひとりの状態に応じて、補食や調理方法等の工夫をしている。月1回体重測定を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にはクリスマスツリーやリースを飾り、季節感を採り入れる工夫をしている。台所から食事の準備の音や匂いがしており、生活感がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	衣装ケース、衣類、靴、カレンダー等、使い慣れた馴染みのものが持ち込まれており、本人が安心して過ごせる場所となっているように見受けられた。		